



略歴 1965年、長野県小諸市生まれ。44歳。早稲田大卒。石井郁子衆院議員、井上美代参院議員の秘書などを経て07年参院選(東京選挙区)、09年東京都議選に立候補。家族は夫、中学生の息子、小学生の娘。

09/10/30付「しんぶん赤旗」から記事のみ転載

田村智子さんは1998年参院比例候補を皮切りに、日本共産党の国政などの候補者として10年余にわたり有権者と対話し、国民のくらしの窮状を肌身でつかんできました。東京・南関東で比例議席を必ず勝ち取る先頭に立つ候補者として不転の決意で臨みます。

前進今度こそ

東京以外で初めての本格的な候補者活動のスタートは、党神奈川県委員会の訪問でした。幾度となく重ねてきた決意表明ですが、退室してからひざの震えに気づくほど緊張して

参院選 比 例 新人候補

こんな人です

田村 智子さん 東京・南関東

ました。南関東の人たちの願いも背負い、今度こそ国政で前進を―思いは一つ、自然にわき起こった温かい拍手に背中を押され、神奈川、千葉、山梨の3県を駆け抜けました。

都議選で掲げた75歳以上と子ども医療費無料化は、総選挙で自公政権退場の審判を経て国政の課題になりました。参院比例候補の要請を受けたのは発表の1週間前です。

「人生の分岐というべき大変なかつとうがありました。が、公約実現を最前線の国政候補として果たしたいという思いで決意しました」

子どものころ先生の説明を聞きながら、こうしたら分かりやすいかな、どう話したら伝わ

普通の暮らしが大切

るか頭の中で考えるのが好きだったといえます。学生時代、学費値上げ反対や平和運動を通じて、国民の願い実現に献身し日本改革の展望を示す日本共産党を知り、入党しました。

田村さんの2人の子どもが通った葛飾区の保育園の元職員、八町サヨ子さん(61)は「普通のくらしを大切に思う田村さんが、政治を変えたいとより訴える姿が大好きです。一日も早く国会に送り出したいと思っていたので、候補者決定はすぐくうれしかった。どうしても参院比例で当選させたい」と話しました。

「早く国会へ」

8年間の国会秘書時代、30人学級の野党共同法案立案や子どもの権利条約実施など教育分野にかかわりました。子どもの中で広がる格差と貧困、「どうせ正社員になれない」と若者が身も心もすり減ら

す非正規雇用をなくし、「雇用は正社員が当たり前」の社会をつくりたい。加えて首都圏で住民を苦しめる米軍基地撤去の運動や、農業分野での懇談にも積極的に取り組みたいと意欲を燃やします。